

挨拶

東山梨教育協議会会長 三枝 修

2011年3月11日に発生した東日本大震災は地震・大津波により2万人あまりの死者・行方不明者を出したばかりか、その後の原発事故も重なり、1年が経過しようとする現在でも避難を余儀なくされている人たちが多数います。亡くなられた方々の冥福を祈ると共に、被災地の一日も早い復旧、復興が実現することをお祈りします。

2011年は、新指導要領が小学校で全面実施となり、中学校では移行に向けて最終年になった年でもあります。また、「東山梨教育研究」は、1962年度に創刊以来、記念すべき第50集を発行する節目の年にもなりました。

1963年度の「東山梨教育研究」の中で、当時の小泉清一校長会長は、「東山梨教育の現況と将来について」と題して筆をとり、「光は東方より教育は東山梨から」の伝統を守り、発展させていくために、個々の優れた研究、各学校の優れた教育成果を点として存在から、相互に関連性をもって東山梨地区を覆う線や面にしていく必要性、そしてそのための組織作りの必要性を強調しています。その上で、将来を見据えて、「教師としての自戒に基づく実践規律・生活規律の確立」「校内の人間関係・個人研修・全員参加の校内研修、ブロック研修、グループ研修等による集団研修・継続研究・指導機関の共同活用・研修時間、研修費の確保による現職教育」「人間性を高め、人間関係を深める道德教育」「家庭教育」の充実を取り上げています。教育課題を東山梨全体で考え合い、話し合い、力を合わせて解決するといふ気運の高まりの中から、「東山梨教育連絡会議（今日の教育協議会委員会）」が誕生。この会議の中から、地域の教育振興のため、校長会、教頭会、教連の三者が教育協議会を設立し、教職員の研修、児童生徒の文化活動、全体に共通する教育問題の全体協議し運営していく「東山梨教育推進協議会」（後の東山梨教育協議会）が構想され、実現に向けて動き出しました。

あれから50年。当時を知る方々は少なくなりましたが、組織を作り、育て上げてきた諸先輩の英知と努力に頭の下がる思いがします。諸先輩の方々の思いを受け継ぎ、その時々における「東山梨教育の現況（課題）と将来（解決への見通しと手だて）」について取り組み、記録してきたのが、「東山梨教育研究」ということになります。

2011年度の教育協議会研究は、統一テーマ「人間性豊かな子どもたちの育成とその学習を保障する教育活動の探求」のもと、「子どもたち」の事を第一義におき、今日までの営みと成果を受け継ぎながら、新たな工夫を加えていくことはもとより、共に力を合わせ、幾多の直面する課題を克服する力量を高めるため、各校の校内研究、教科・問題別26部会で行う教育研究部会研究、8つの中学校区ごとに行うブロック交流研究会、3つの特別委員会などの活動に取り組んできました。学校研究、教育協議会研究、学校経営研究会、学校運営研究会それぞれの研究成果がこの「東山梨教育研究」第50集におさめられています。

50年は一通加点ではありますが、50年という年月の重みを感じながら、東山梨教育の原点を大事にした、個々の、そして組織としての目標・手だてを明確にした活動が、着実な実行により、大きな実りに繋がる新たな一歩が踏み出されることを期待しています。

結びに、私たちの研究活動を物心両面にわたり支え、指導して頂いた多くの方々から御礼申し上げ挨拶と致します。